

1	敷地概要, 付近見取図	P 1
2	新青果棟の概要	
	(1) まちと共存する「都市型卸売市場」	P 2
	(2) 機能面の向上	P 4
3	新青果棟の主な特徴	
	(1) 品質管理の向上	P 5
	(2) 物流の効率化	P 6
	(3) 市場機能や食文化の発信	P 7
	(4) 災害時の対応	P 9
	(5) 環境への配慮	P 9
4	各階平面図	P 10

1 敷地概要, 付近見取図

京都市中央市場は、市内中心部に位置し、小売、料理屋、量販店等との強固な流通ネットワークを構築しています。

また、梅小路公園をはじめ、京都リサーチパーク（KRP）、商店街、文化・観光施設、寺社、大学といった多彩な地域資源が集積する「京都駅西部エリア」に立地しています。



**新青果棟
(現青果3・4号棟等)**

新青果棟は、北は五条通、南は花屋町通、東はJR嵯峨野線の高架橋に接し、南北に延びる敷地となります。



2 新青果棟の概要

(1) まちと共存する「都市型卸売市場」



五条通から新青果棟の北西側を臨む



五条通から新青果棟の北側を臨む

京都市中央市場は、昭和2年に日本初の卸売市場として開場し、永きにわたり市民をはじめとする消費者の食生活や生産者、「京の食文化」を支えています。整備に当たっては、衛生管理の向上や物流の効率化等により、市場機能を飛躍的に向上させるとともに、先行して整備を進めている新水産棟と一体となって、市場ならではの魅力を提供することにより、「京都駅西部エリア」をはじめとする地域の活性化や「和食」に代表される食文化の振興、更にはSDGsの実現等に寄与していきます。

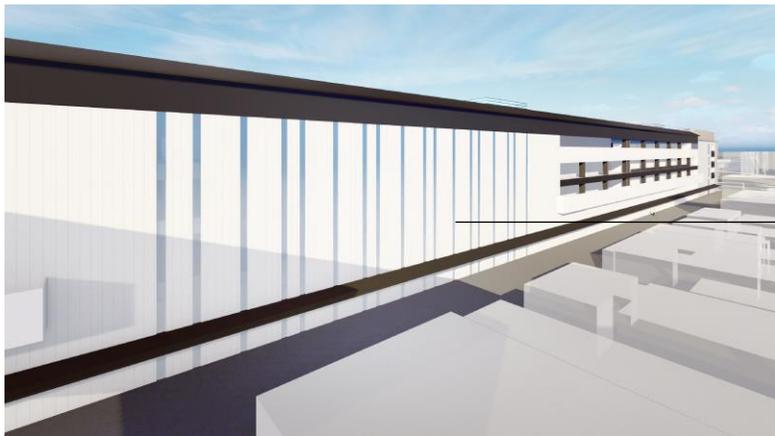


J R 嵯峨野線から新青果棟の南東側を臨む



J R 嵯峨野線から新青果棟の北東側を臨む

新水産棟との接続デッキ



京都リサーチパークから新青果棟の北西側を臨む



花屋町通から新青果棟の南西側を臨む

壁面に変化をもたせることで
圧迫感を与えない外観

新青果棟へのトラック入場口

(2) 機能面の向上

【現状】

- 現在の青果卸売場等は旧千本通を中心に東側に青果1・2号棟、西側に新青果棟の計画地となる青果3・4号棟に分断されています。

<青果1・2号棟>

卸売場(せり場), 仲卸売場(仲卸店舗, 仲卸事務所)等

<青果3・4号棟>

卸売場(荷置場, 卸事務所), 仲卸売場(冷蔵庫)等

- 青果3・4号棟への入荷車両は、五条通から入場し、3・4号棟周辺で荷下ろしが行われています。また、青果1・2号棟への入荷車両は、旧千本通から入場し、1・2号棟間及び1号棟北側で荷下ろしが行われています。

【計画】

- 新青果棟は、現青果3・4号棟等の場所に建物を重層化して整備することで、各機能の集約化と市場敷地のコンパクト化を図ります。

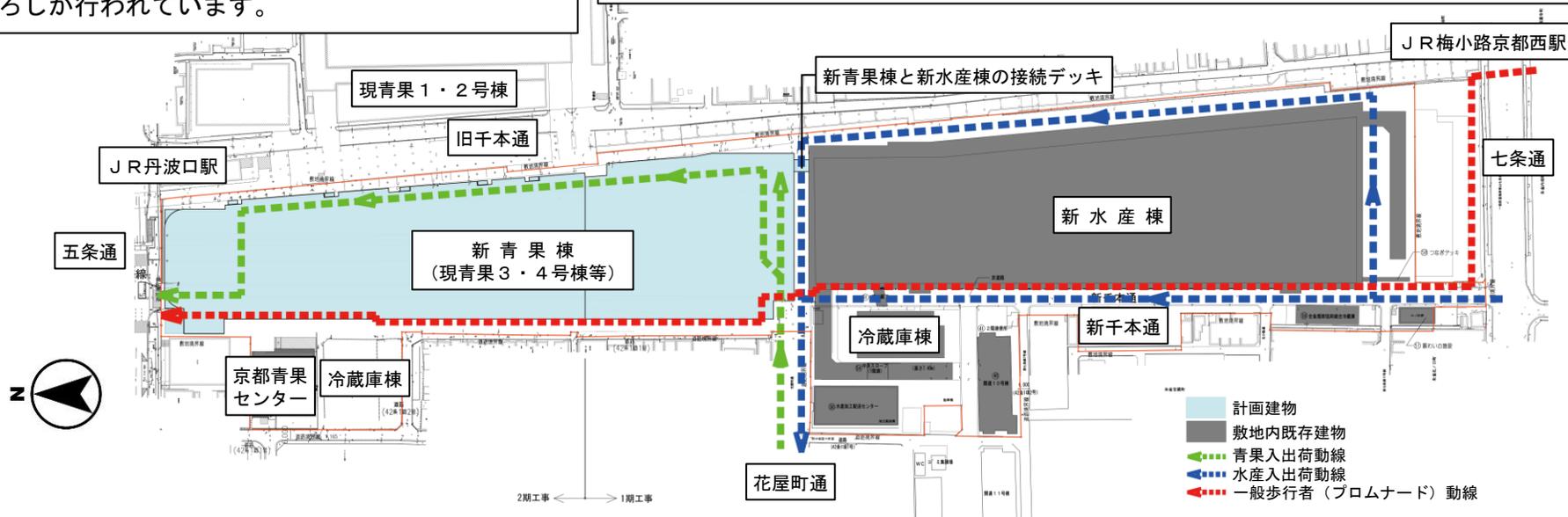
- 市場全体の作業の円滑化と安全性を高めるため、青果部と水産物部の物流動線を明確に分離するとともに、場内通路の原則一方通行化を行います。

<新青果棟動線計画>

入場(花屋町通)→場内(JR高架沿い北上)→退場(五条通)

- 各階の東側に新たに設置する入出荷バースで入出荷作業を行います。入出荷バースを東側に集約することで、西側近隣住居への騒音などの影響を極力抑えます。

- また、新水産棟に整備中の屋上プロムナードと接続し、南の七条通から北の五条通まで楽しく歩くことができる「プロムナード」と「見学エリア」を設けることで、地域の賑わい創出につなげます。



3 新青果棟の主な特徴 (1) 品質管理の向上



- 外壁で覆われた閉鎖型施設とすることで，外気や小動物等の食品の安全に係るリスク要因を可能な限り排除します。
- 閉鎖型施設内の温度管理を徹底し，入荷から出荷に至るまでのコールドチェーンを確立します。

(2) 物流の効率化



出荷バース（2階）



棟内スロープ



入荷バース（1階）

○施設東側に設ける入出荷バースは、時間帯により買出人駐車場として利用するなど、有効活用を図ることも検討します。

○事業環境の変化や自動化設備の導入等による将来的な改修の必要性にも柔軟に対応できるよう、汎用性・可変性の高い施設とします。

(3) 市場機能や食文化の発信



エントランスホール

○買出人や来場者を迎え入れるエントランスホールは、内装材に市内産木材を使用した温かみのある空間とします。



見学エリアからせり場を臨む



プロムナード

- 市民や観光客、修学旅行生等が安全に市場を見学できる「見学エリア」や、楽しく回遊できる「プロムナード」を設置します。
- 新水産棟見学エリアや「京の食文化ミュージアムあじわい館」とも連携し、「和食」や「京の食文化」を支える京都市中央市場の役割や機能等を広く知っていただくことができる施設とします。

(4) 災害時の対応

- 現在整備中の新水産棟は、災害発生時においても市場機能を維持するため、非常用発電や太陽光発電設備、水道の代替となる地下水処理設備を有しています。新青果棟においても同様に、非常用発電や太陽光発電設備を設置することで、停電時に備えるとともに、新水産棟の地下水処理設備を相互に有効活用し、断水時における業務の継続を確保します。
- また、震度6～7程度の地震に対しても、倒壊、または崩壊する危険性が低いと認められる耐震性能の1.25倍の基準を確保するなど、市場のレジリエンスを強化します。

(5) 環境への配慮

- 太陽光発電やBEMS※、LEDライト、高効率機器の採用等により、環境負荷を最大限低減し、市場の省エネルギー・省コスト化を進めます。

※Building Energy Management Systemの略で、ビル内で使用する電力の使用量などを計測し、見える化を図るとともに、空調や照明設備等を制御するエネルギー管理システム



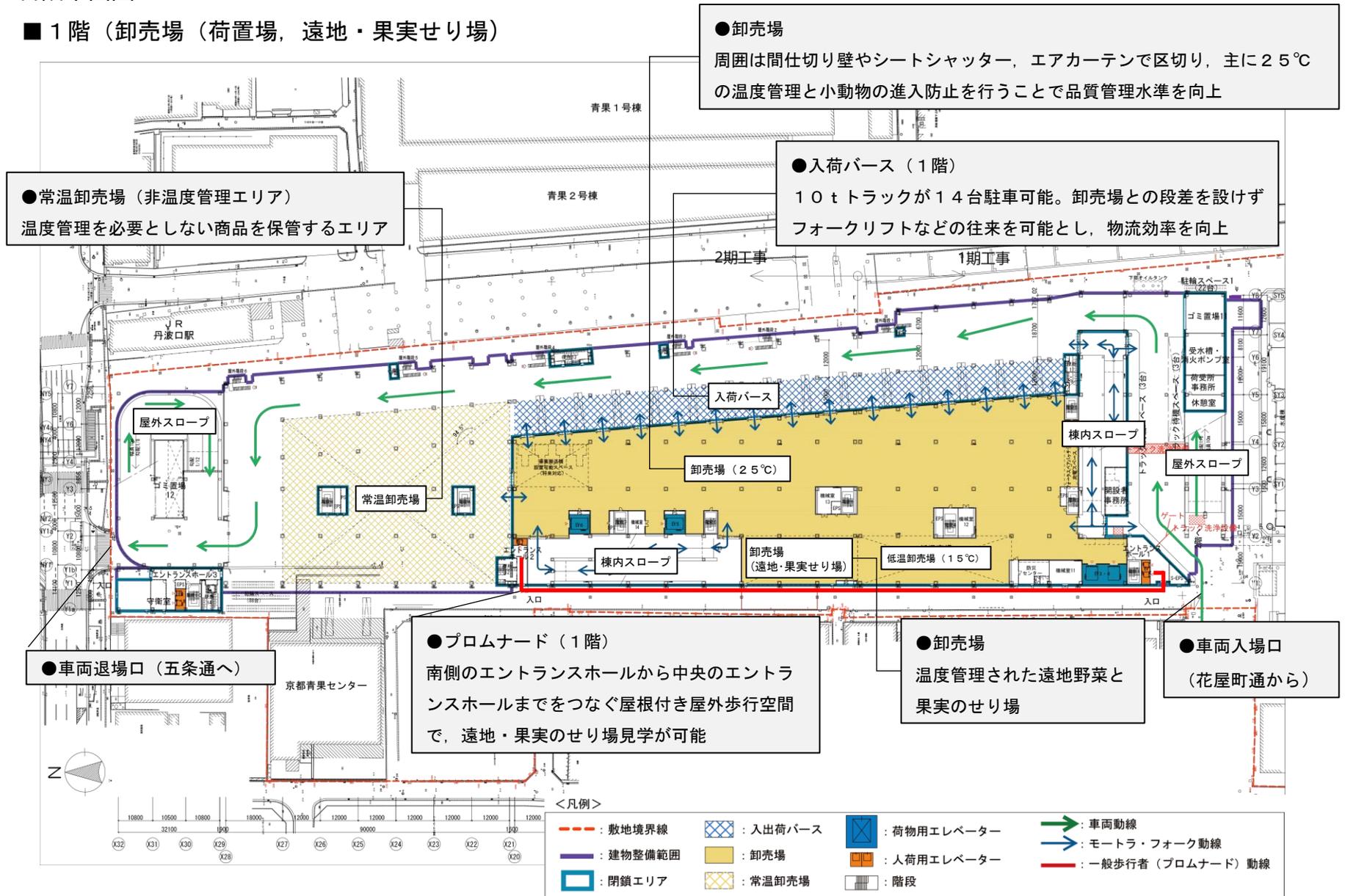
地下水処理設備（新水産棟）



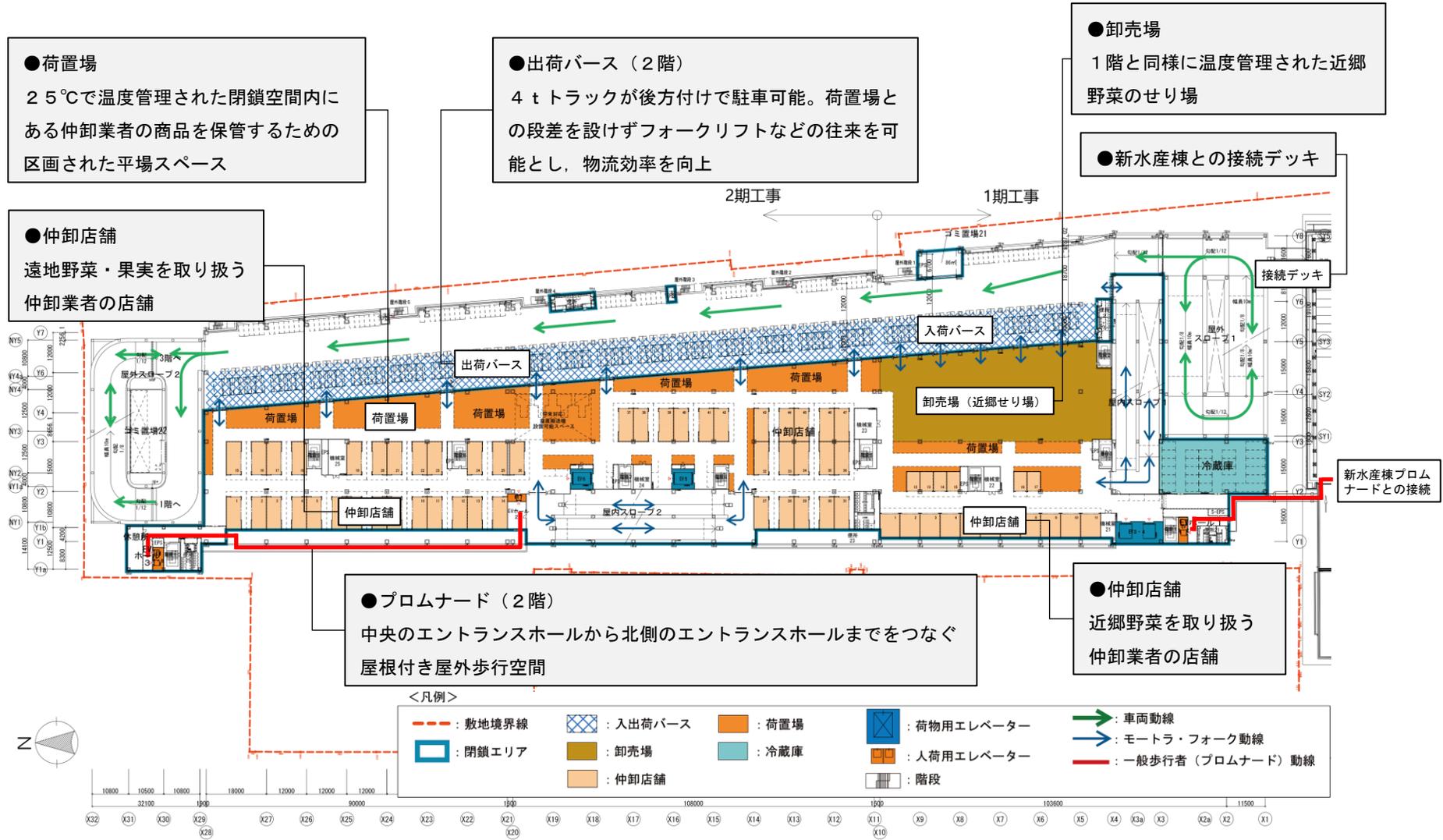
太陽光発電パネル（新水産棟）

4 各階平面図

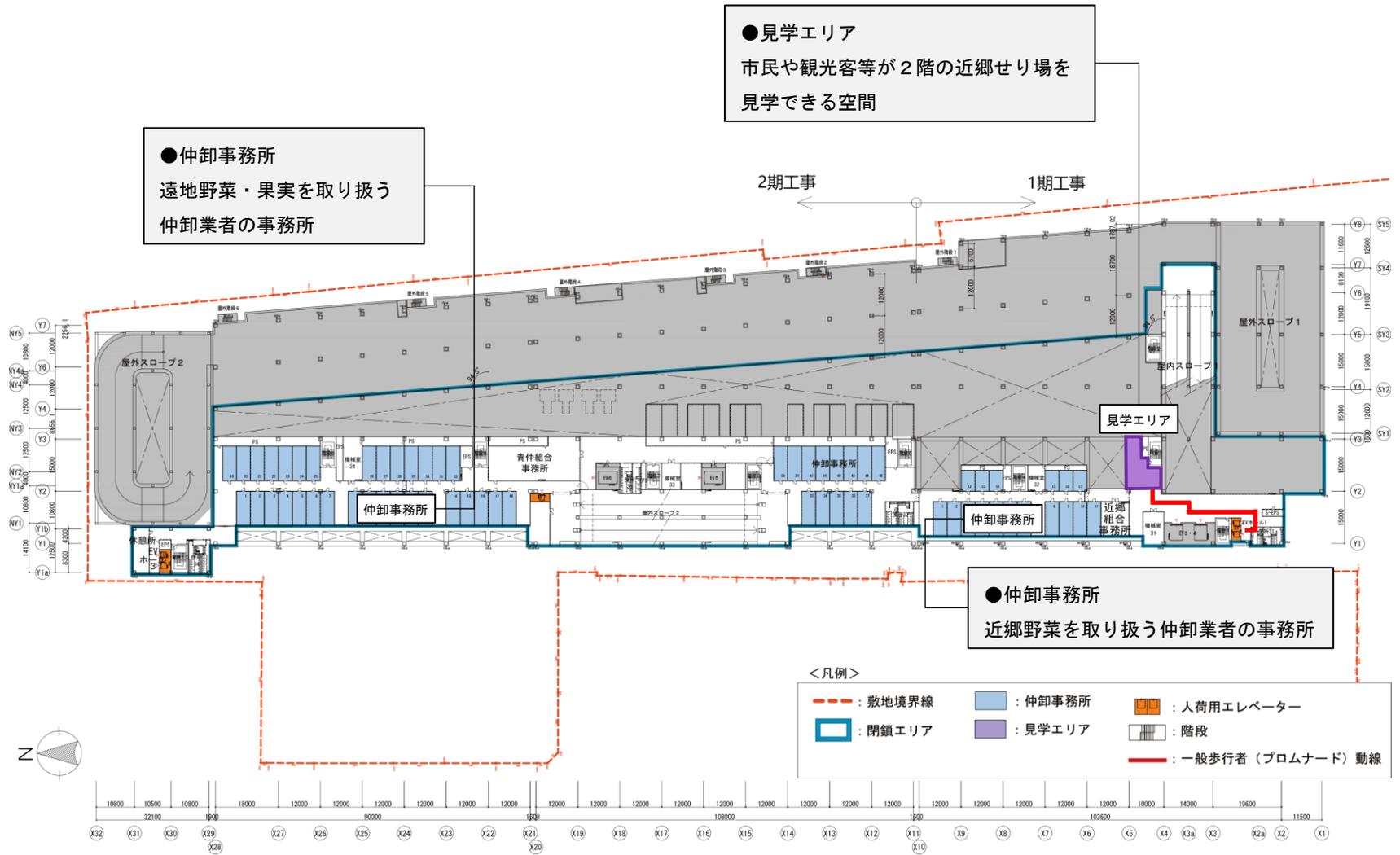
■ 1階（卸売場（荷置場，遠地・果実せり場）



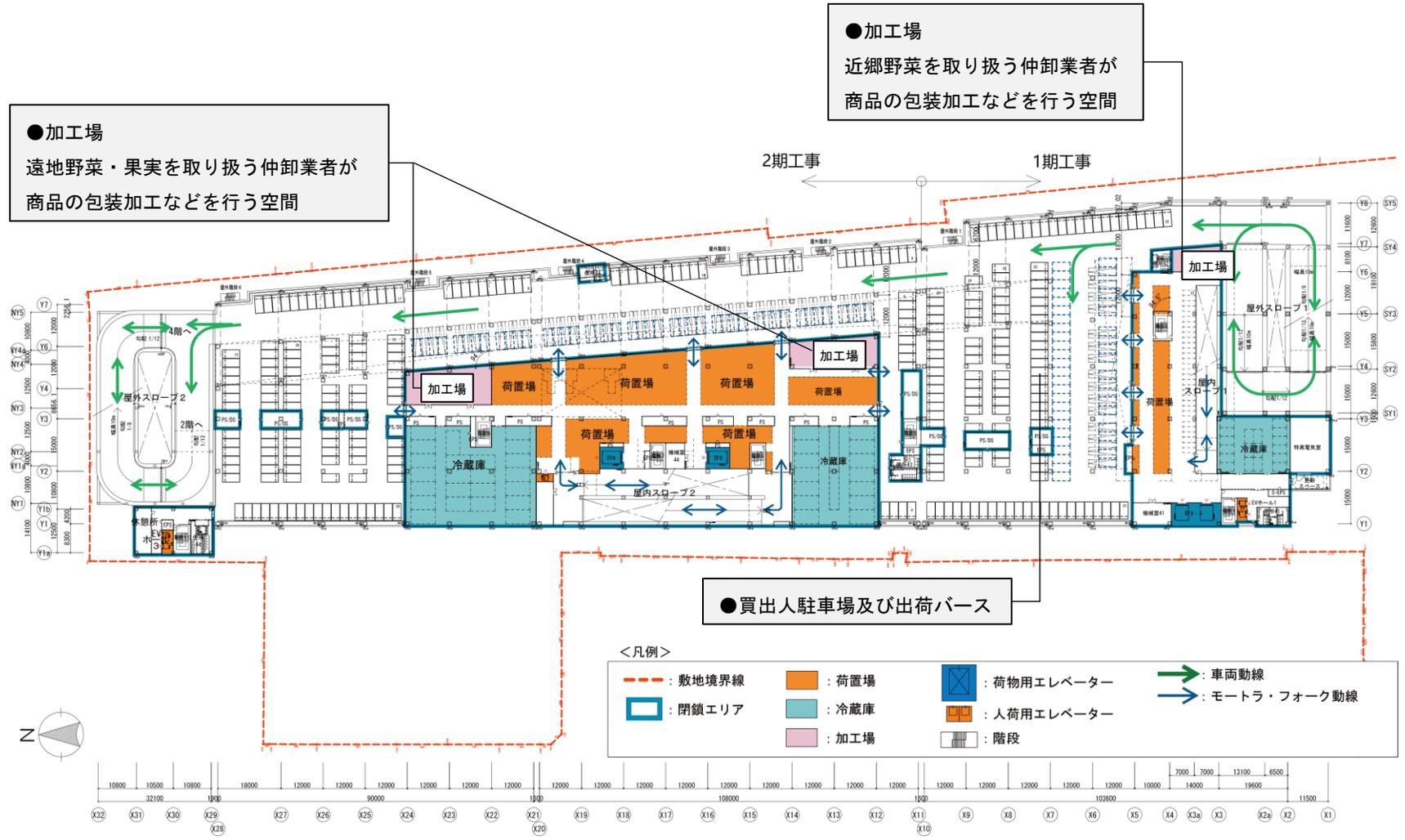
■ 2階（仲卸売場（仲卸店舗・荷置場・冷蔵庫），卸売場（近郷せり場））



■ 3階（仲卸売場（仲卸事務所）， 見学エリア）



■ 4階（仲卸売場（荷置場・冷蔵庫・加工場）， 買出人駐車場）



■ 5階（屋上，場内事業者駐車場）

